

春の彼岸によせて

令和五年三月 大乘寺 長老 岡 光俊

ロシアがウクライナに侵攻して一年になるこの時期、私たちが学ぶべきことは数多くあると思います。

これまでの戦争と大きく異なるのは、各国のリーダーたちが集い、話し合いを繰り返し、終戦の糸口を模索し続けているということだと思います。

しかし、この平和的取組みも、地位と名誉に溺れている独裁者には通じていないようです。

世界の戦争史からも、戦争終結には独裁者に対し、他国からの地位剥奪が最も効果的であり、その「元」で操られている国民が虚妄の幻夢から醒める日は、独裁者が投降してからのことであることは歴史が示しています。

今日、平和な我が国も、僅か二世代前にはすべての国民が、偽りで塗り固められた指導者の言動により、尊い命を捧げるべく追い込まれていったのです。

人殺しを推奨している国は、地球上には存在しません。しかし、戦争とは、国の指導者が先導し、国民の大多数が殺人を奨励する「うねり」へと導かれ、荣誉ある行為とすり替えられていくのです。

この間違いを人類は幾度となく繰り返して来ました。

人間には、学習能力がないのでしょうか。

同じ人間として人ごととは思わず、このような「現実」に気づき、繰り返し返さない知恵を頂きましょう。

争いには「悪心」が深く関わっています。悪心がなければ喧嘩や戦争は起こりません。

お釈迦さまは、自己の内を見つめ、己の愚かな悪心に深く気づくことが最も大切とされ、そのような人間の心の動きを、

『心根は猿猴の如くにして、暫くも停まる時有ること無し』

「人の心というものは、欲の多い猿のようなもので、一瞬たりとも定まることがない」と説かれています。

皆さまもご自身の心の動きを振り返ってみて下さい。

人間は、常に自分の都合の良いように変化します。

人格といいますが、その人のほんの一部分が美化、強調されているだけで、その裏では本人もコントロールできない感情が常に動き、その都度、言動も変化しています。

お釋迦さまはそのような人間を哀れと思ひ、そこから抜け出す方法をお教え下さっています。

己をおのれを正当化することにかけて、人間に勝る生き物は存在しないでしょう。

そのような人間でも、お経に照らし合わせ、日々を生きること、己の至らなさを間違いに気づき、心が浄まり、言動も清まると申されていきます。

世界人類が皆、清らかな心となるには今後、何千年もかかるでしょう。

そのときが来て初めて、戦争を思いつかない人間となることのできるのでしょうか。

お釋迦さまは、このような人間の迷いや苦しみ、苛立を抱えている岸を「此の岸」とし、佛の悟りの世界を「彼の岸」とされたのです。彼の岸、即ち、悟りの岸「彼岸」に向かわせて頂く春と秋、静かに深く自らを見、自らを正す大切なひととき、墓前で手を合わせ、ご先祖さまと共に煩惱から離れるひとときとなればと思います。

春の彼岸、ご先祖さまも、靈界に戻られて日々、お釋迦さまや諸菩薩さまよりお経に沿って教えを頂かれています。

私たちも、ご先祖さまと一緒に、お釋迦さまや諸菩薩さまにお教え頂き、激動の今を乗り切る知恵を頂き、桜花爛漫の春を迎えさせて頂きましょう。